

平成24年度 病害虫発生予察情報 予報第5号

平成24年7月13日
広島県東部農業技術指導所

1 発生予察情報

(1) 水稲（7月上旬調査）

■適用地域：中部

病害虫名	発生量（平年比）		防除上の注意事項
	現況	予想※1	
葉いもち	並 (雑なし)	並	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内で葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所などを重点的に観察し、発生が見られたら直ちに防除する。 ・県中東部において、ずり込み症状の発生しているほ場も認められているので、中山間地帯の常発地では、ほ場の観察を行い、発生に注意する。
穂いもち	—	並	<ul style="list-style-type: none"> ・葉いもち発生ほ場で、上位葉に病斑が認められる場合は、穂ばらみ期の防除を徹底する。 ・出穂前後に曇雨天が予想される場合は、穂ばらみ期及び穂前い期の防除を徹底する。
紋枯病	並 (雑なし)	並	<ul style="list-style-type: none"> ・本病は、畦際での発生が多い傾向がある。防除要否の判断にあたっては、ほ場内部を含め調査する。 ・穂ばらみ期が高温多湿で経過すると病斑の上位進展が進み、被害程度が大きくなる。 ・穂ばらみ期における要防除水準は、早生種で発病株率10%、中生種では20%以上である。 ・前年度多発したほ場では、発生が多くなる傾向があるので注意する。
セジロウンカ	少	少	<ul style="list-style-type: none"> ・幼穂形成期から穂ばらみ期に、10頭/株以上の発生が見られる場合には防除を行う。 ・7月中旬以降も飛来が予想されるので、今後の情報に注意する。
斑点米カメムシ類	やや少	やや少	<p>■耕種的防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメムシ類の密度低減を図るため、水稲出穂期2週間前に畦畔等の草刈（除草）を実施し、遅くとも水稲出穂期10日間前までには草刈（除草）を終える。 ・なお、畦畔のイネ科雑草の出穂を長期間抑制するため、水稲の出穂期の2～3週間前と出穂期直前の2回草刈を実施することによって、より一層斑点米カメムシ類の密度を下げるができる。 <p>■農薬による防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カスミカメムシ類を主な対象とする場合の防除時期は、出穂期及びその10日後の間で計2回。 ・ホソハリカメムシ等の加害種を主な対象とする場合は、出穂期7日後から14日後の間で計2回防除する。なお、2回の防除実施後も本田で発生が見られる場合は、収穫期近くまで加害するので、追加防除を行う。

病害虫名	発生量（平年比）		防除上の注意事項							
	現況	予想 ^{※1}								
斑点米 カメムシ類 （つづき）	やや少	やや少	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水稻生育状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 早生種の出穂期は、平年並～やや遅いと予想されるので、畦畔等の草刈時期や本田の防除時期を逸しないように注意する。 ■ 要防除密度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本田（乳熟期）のすくい取り調査による要防除の判断は、下表を目安とする。 							
			<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">着色粒混入率</th> <th colspan="2">要防除密度の目安^{※2}</th> </tr> <tr> <th>カスミカメムシ類</th> <th>ホソハリカメムシ等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2等以下への格下げ</td> <td>0.1%以上</td> <td>4頭以上</td> <td>2頭以上</td> </tr> </tbody> </table>	項目	着色粒混入率	要防除密度の目安 ^{※2}		カスミカメムシ類	ホソハリカメムシ等	2等以下への格下げ
項目	着色粒混入率	要防除密度の目安 ^{※2}								
		カスミカメムシ類	ホソハリカメムシ等							
2等以下への格下げ	0.1%以上	4頭以上	2頭以上							

※2 捕虫網による20回振りすくい取り

※1 予想は、次回予報時期（7月下旬）の予想発生量を示しています。

（2）果樹全般（7月上旬調査）

■ 適用地域：県東部

病害虫名	発生量（平年比）		防除上の注意事項
	現況	予想 ^{※3}	
チャバネア オカメムシ	並～ やや多	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・ カメムシ類は移動性が高く、飛来は園地間差が大きい。夕方または早朝に、ほ場周辺も含めて巡回し、ほ場への飛来が認められたら防除を行う。 ・ 果樹カメムシ類の加害は長期間に及ぶため、継続してほ場の観察に努め、防除実施後も園地への飛来が認められる場合には、追加の防除を行う。 ・ 有袋栽培は果樹カメムシ類の防除手段として有効であるが、果実が肥大し果実袋に密着するようになると、袋の上から吸汁されることがあるので注意する。 ・ 基幹防除を徹底し、山際のほ場などで発生が多く見られる場合は追加防除を行う。

※3 予想は、次回予報時期（7月中旬）の予想発生量を示しています。

2 その他病害虫の発生状況

作物名	病害虫名	現況	病害虫名	現況
水 稲 （中 部）	トビイロウンカ	並（発生なし）	ヒメトビウンカ	少
	コブノメイガ	並（発生なし）	フタオビコヤガ	少
	イネクビホソハムシ（イネドロオイムシ）	少 ^{※4}		

※4 現況欄のイネクビホソハムシ（イネドロオイムシ）の発生量は、過去4年の比較による。

3 予報の根拠

(1) 水稻 (7月上旬調査)

ア. 葉もち (中部)

(ア) 巡回調査結果

発生は認められなかった (平年並)。

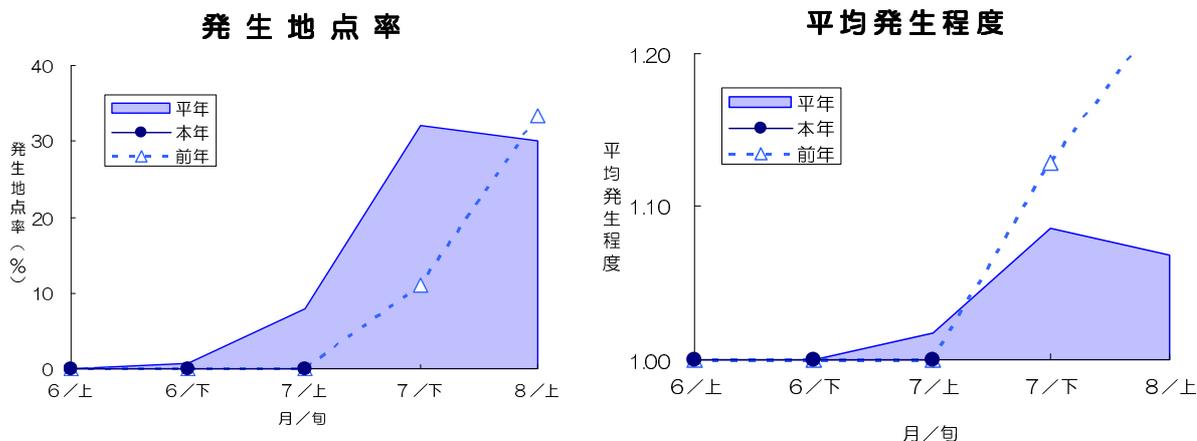
(イ) 今後の気象

向こう1か月の気温は平年並で、降水量も平年並である。

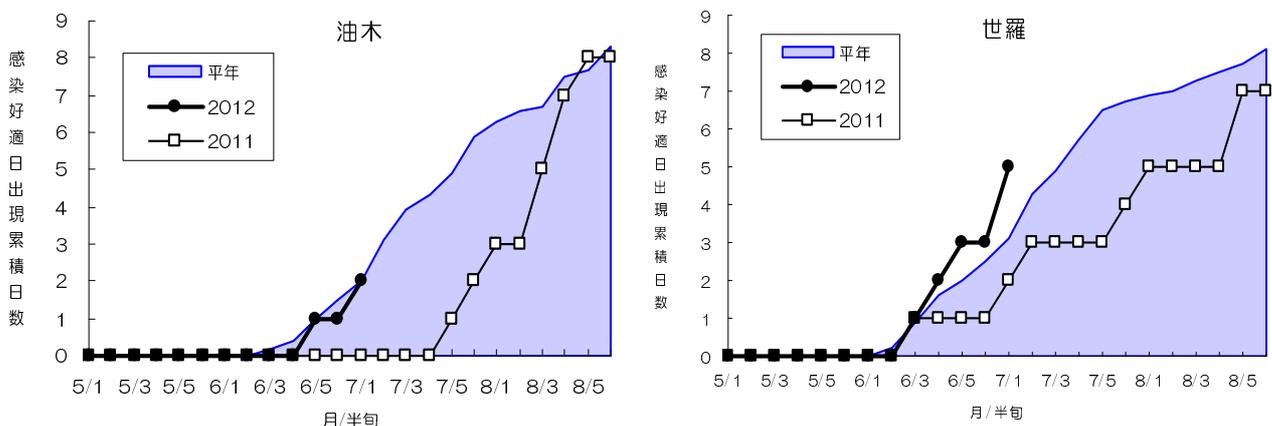
(ウ) ^{フラスタム}BLASTAM (いもち感染好適日判定モデル)

6月1日から7月8日までの中東部 (油木, 世羅) の累積いもち病感染好適日は、平年並~やや多めに推移している。

(エ) 調査結果の具体的数値 (グラフ)



BLASTAM (いもち感染好適日判定モデル)



イ. 穂もち (中部)

(ア) 巡回調査結果

穂もちの感染源となる葉もちの発生は、認められなかった (平年並)。

ウ. 紋枯病 (中部)

(ア) 巡回調査結果

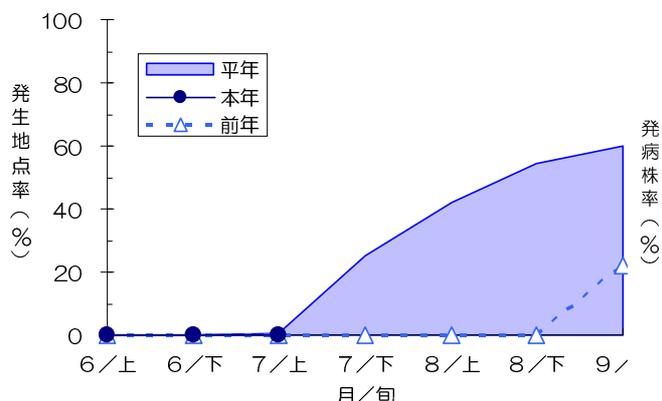
発生は認められなかった (平年並)。

(イ) 今後の気象

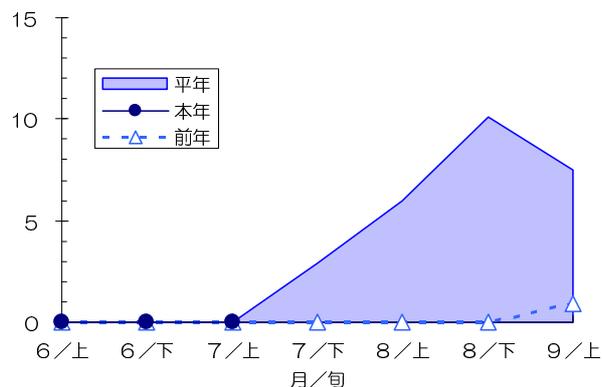
向こう1か月の気温は、平年並である。

(ウ) 調査結果の具体的数値 (グラフ)

発生地点率



発病株率



エ. セジロウカ

(ア) 巡回調査結果

平年に比べ少ない発生であった。

(イ) 今後の気象

向こう1か月の気温は、平年並である。

(ウ) 予察灯・予察田調査

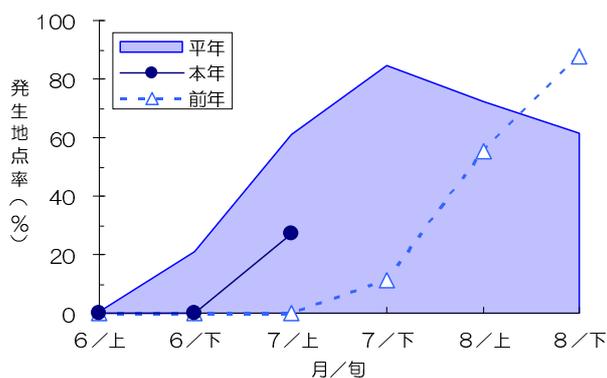
福山市駅家町の予察灯において、7月2日に初飛来が確認され、7月5日～7月7日にも誘殺された。

7月9日の福山市津之郷町の予察田調査では、セジロウカの飛来が確認された〔発生程度1.34 (平均値1.56^{*5})〕。

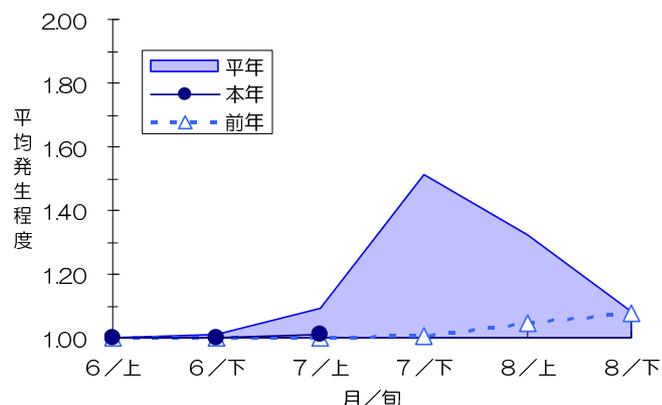
※5 予察田の平均値は、過去5年間の平均値です。

(エ) 調査結果の具体的数値 (グラフ)

発生地点率



平均発生程度



オ. 斑点米カメムシ類

(ア) 牧草地すくい取り調査結果 (7月上旬)

平年に比べやや少ない発生であった。地点によって、捕殺数に大きな差が認められた。

(イ) 予察灯調査 (福山市駅家町)

7月第1半旬までのアカスジカメムシの累積誘殺数は11頭で、平年並 (平年値7.8頭) であった。

(ウ) 今後の気象

向こう1か月の気温は、平年並である。

(工) 調査結果の具体的数値 (グラフ)

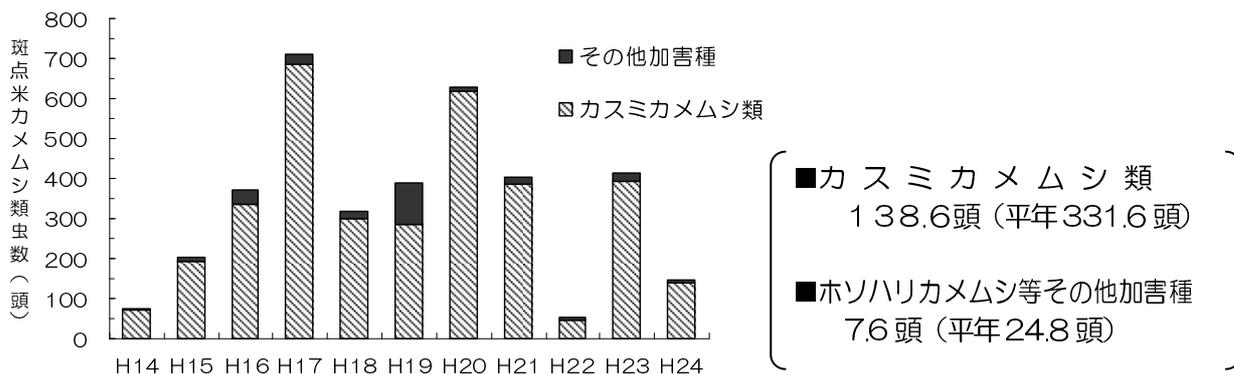


図 7月上旬における牧草地すくい取り調査結果
※捕虫網による20回振りすくい取りによる

(2) 果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシ (県東部)

ア. フェロモントラップ

(ア) 現地なしほ場 (世羅町本郷)

7月第2半旬までの累積誘殺虫数は、注意報を発表した平成12年、平成14年、平成16年、平成22年に比べれば少ないが、多発年傾向を示している。

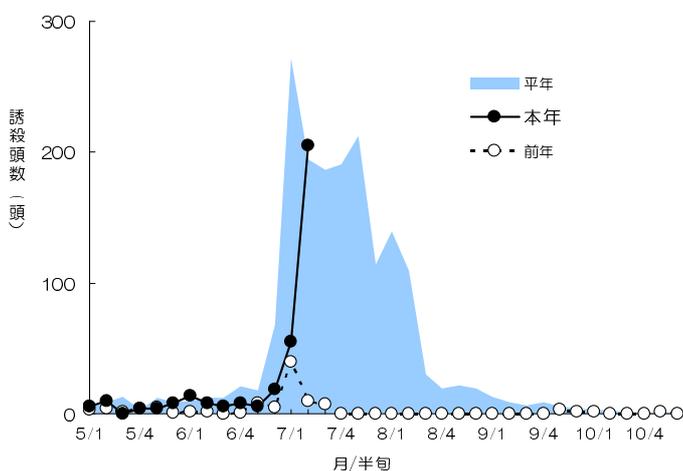
〔累積誘殺虫数 353.2頭 (平成12年 1028.0頭、平成14年 750.4頭、平成16年 4145.9頭、平成22年 893.0頭)〕

(イ) 現地ももほ場 (福山市神辺町)

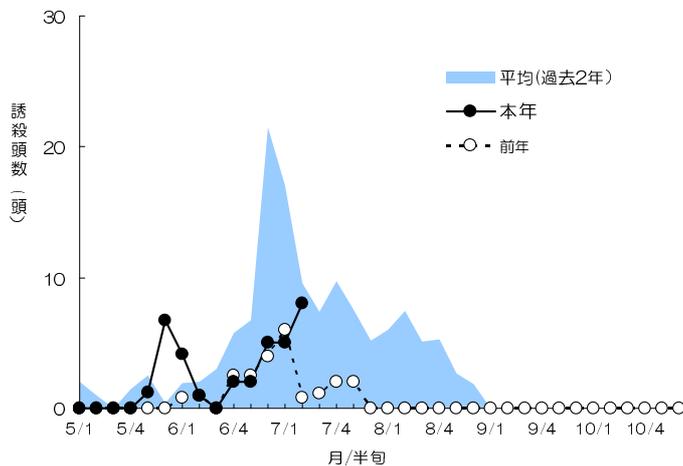
7月第2半旬までの累積誘殺虫数は、過去2年の平均に比べ少なく推移している。

〔累積誘殺虫数 35.2頭 (平均 74.9頭)〕

イ. 調査結果の具体的数値 (グラフ)



フェロモントラップ調査 (世羅町本郷)



フェロモントラップ調査 (福山市神辺町)

(3) その他病害虫の巡回調査等結果

作物名	病害虫名	現況	地点率 (平年値)	発生率等 (平年値)	特記事項
水 稲 (中部)	トビロウカ	並 (発生なし)	0% (0%)	平均発生程度 1.00 (1.00)	7月10日現在, 予察灯(福山市駅家町), 予察田(福山市津之郷町)への飛来は認め ていない。
	ヒメトビウカ	少	9.1% (29.4%)	平均発生程度 1.00 (1.02)	ヒメトビウカの媒介する 縞葉枯病の発生に注意し, 発 病株は抜き取る。
	コブノメイガ	並 (発生なし)	0% (3.7%)	被害株率 0% (0.2%)	
	フタオビコヤガ	少	18.2% (45.4%)	被害株率 1.1% (4.5%)	基本的に, 本虫のみを対象と した防除の必要はない。
	イネクビホソハ ムシ(イネドロ オイムシ)	少 ^{※6}	20.0% (74.1%)	被害株率 9.2% (29.2%)	一部地域で多発ほ場がみら れた。

※6 現見欄のイネクビホソハムシ(イネドロオイムシ)の発生量は, 過去4年の比較による。

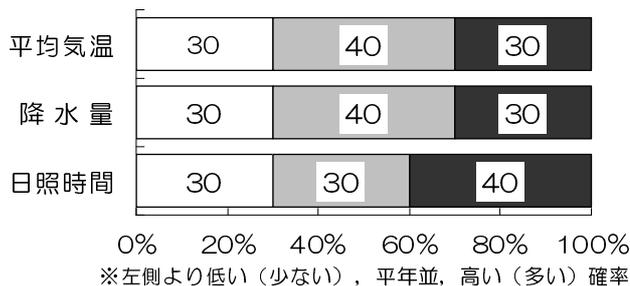
5 気象情報

■ 中国地方1か月予報(7月7日から8月6日)【広島地方気象台7月6日発表】

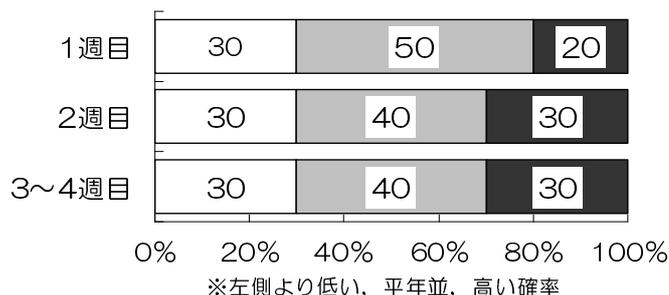
前半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は, 平年並みの確率が40%です。降水量は, 平年並みの確率が40%です。日照時間は, 多い確率が40%です。

週別の気温は, 1週目は, 平年並みの確率50%です。2週目は, 平年並の確立が40%です。3~4週目は, 平年並の確率が40%です。

□ 向こう1か月の平均気温・降水量
・日照時間の各階級の確率(%)

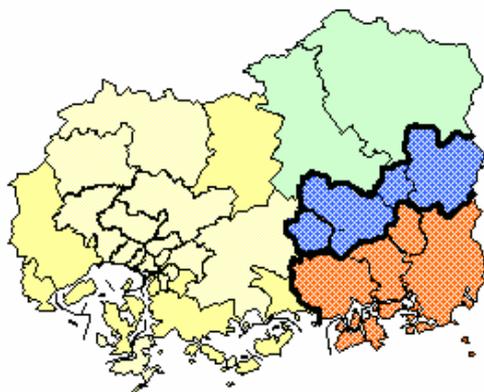


□ 向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)

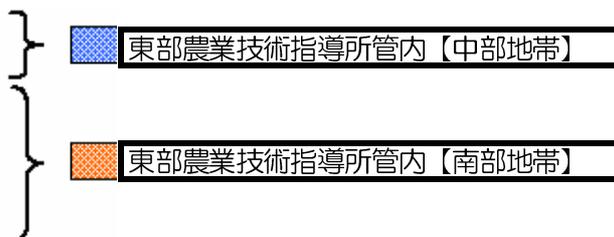


6 情報にかかる用語説明等

(1) 地帯区分



地帯区分		該 当 市 町
県東部	中部	三原市久井町, 三原市大和町, 世羅町, 府中市上下町, 神石高原町
	南部	三原市(久井町, 大和町を除く), 尾道市, 福山市, 府中市(上下町を除く)



(2) 平 年 値

過去10年間(平成14年~平成23年)の平均値です。

(3) 予想発生量・現況

原則として過去10年の数値をもとに気象予報等を参考にして、本年の発生量がどの程度かによって次の5階級に区分して予報しています。

- 多 … 予想発生量が過去10年の最大値と同程度の場合を表します。
- やや多 … 予想発生量が過去10年の2~3番目に多い値と同程度の場合を表します。
- 並 … 予想発生量が過去10年の4~7番目に多い値と同程度の場合を表します。
- やや少 … 予想発生量が過去10年の2~3番目に少ない値と同程度の場合を表します。
- 少 … 予想発生量が過去10年の最小値と同程度の場合を表します。

予想発生量	多	やや多	並				やや少	少		
過去10年間の値(多い順)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

なお、現況欄についても予想発生量と同様の方法によって現時点の発生状況を5階級に区分し、表記しています。

(4) 平均発生(発病)程度【水稻いもち病, ウンカ類】

平均発生(発病)程度1.00は、発生(発病)が無かったことを示します。数値が高くなるほど発生(発病)株が多くなり、株ごとの発生(発病)程度が甚だしくなります。

(5) BLASTAM (いもち感染好適日判定モデル)

BLASTAMは、いもち病の発生時期を予測するシステムです。

いもち病の感染には、適当な気温と葉面が一定時間以上濡れていることが必要です。

BLASTAMでは、アメダスのデータ(気温, 降水量, 日照時間, 風速)を用い、いもち病の感染に好適な気象条件が成立したか否かを推定しています。

感染好適日の出現累積日数が多くなるほど、いもち病の発生しやすい気象条件にあることを示します。

7 その他の情報**(1) 農薬危害防止運動の実施について**

広島県では6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。

農薬を使用する際は、使用基準を遵守すると共に周辺環境に注意し、ミツバチなどに被害が発生しないよう飛散防止に努めましょう。

また、農薬は鍵のかかる場所へ保管するなど、農薬による危害防止に努めてください。

なお、平成24年度農薬危害防止講習会は、全て終了しました。たくさんの御参加をいただき、ありがとうございました。

(2) 各種情報提供**■病害虫発生予察情報について**

病害虫発生予察調査データ（フェロモントラップ及び巡回調査データ）や広島県病害虫・雑草防除基準が掲載されています。適切な病害虫防除に活用してください。

掲載場所：広島県HP「病害虫防除」

（[トップページ](#) > [分類でさがす](#) > [しごと・産業](#) > [農林水産業](#) > [農業](#) > 病害虫防除）

【アドレス】 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/byougaiicyuuboujyo.html>

■テレホンサービス

農業技術指導所（病害虫防除所）では、病害虫の発生状況をできるだけ速やかにお知らせするため、テレホンサービスを行っています。

気象条件により発生が大きく左右される病害虫や、ウンカ等の長距離移動性害虫の飛来状況などの情報収集に役立ててください。

地域	電話番号	対象市町
尾三・福山	082-429-3032	三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 神石高原町, 世羅町

■メールマガジン「ひろしま県 病害虫情報お知らせメール」の配信について

広島県では、携帯電話等のメール機能を活用した農作物病害虫等の情報配布サービスを行っています。広島県HP「病害虫防除」に記載の手順で登録していただき、現場指導等に活用してください。なお、詳しい内容は、広島県HP内の「病害虫防除」で確認してください（上記参照）。

掲載場所：広島県HP「ひろしま県病害虫情報お知らせメールの配信について」

（[トップページ](#) > [分類でさがす](#) > [しごと・産業](#) > [農林水産業](#) > [農業](#) > 病害虫発生予察情報）

【アドレス】 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/40948.pdf>

(3) 次回予察情報の発表予定

回りの病害虫発生予察情報（予報第6号）の発表予定は、7月中旬です。対象は、かんきつです。

(4) 今回の病害虫発生予察情報に関するお問合せ先

東部農業技術指導所 病害虫防除チーム（東部病害虫防除所）

【福山市三吉町一丁目1-1、電話084-921-1311（内線3810・3811）】

8 斑点米カメムシ類の耕種的防除方法

斑点米カメムシ類はイネ科植物の子実を好適な餌としており、畦畔のイネ科雑草やイタリアンライグラスなどの牧草地上で増殖し、水稲出穂後、本田に飛び込みイネの子実を吸汁し、斑点米被害を及ぼす。

本田における斑点米カメムシ類の被害を軽減するためには、水稲出穂期前後の数週間、水田周辺にイネ科雑草が出穂しないような管理を行うことによって、斑点米カメムシ類が寄り付きにくい環境をつくるのが重要である。



【アカスジカスミカメ】



【アカヒゲホソカスミカメ】



【ムギカスミカメ】

写真 水稻を加害する主なカスミカメムシ類



【クモヘリカメムシ】



【ホソハリカメムシ】



【トゲシラホシカメムシ】

写真 水稻を加害する主なカメムシ類（カスミカメムシ以外の加害種）

下図のように水稻出穂期2～3週間前と水稻出穂期直前の2回、畦畔の草刈を実施することによって畦畔のイネ科雑草の出穂が長期間抑制され、水稻の斑点米カメムシ類の被害を軽減することができる。

なお、1回のみしか草刈を実施しない場合には、水稻出穂期2週間前を目安に行い、遅くとも水稻出穂期10日前までには草刈を終える。

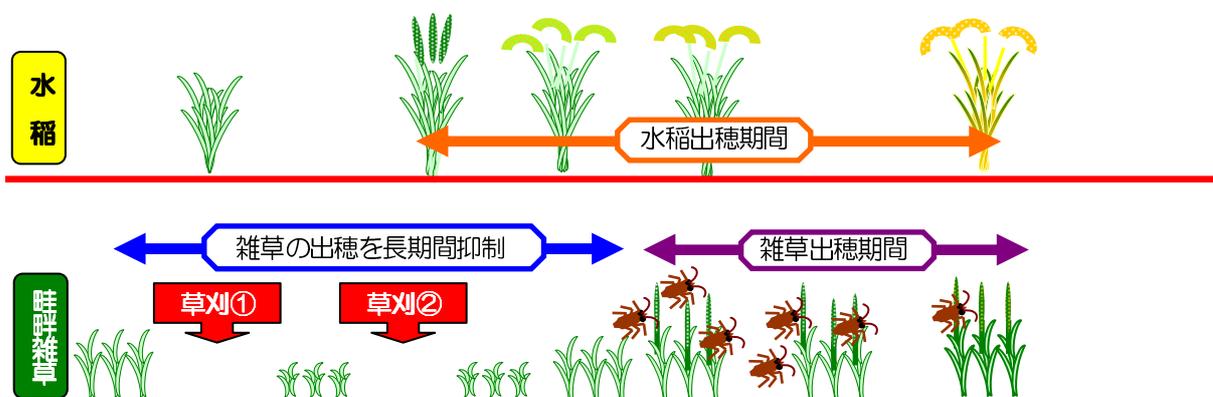


図 畦畔管理の改善による斑点米被害軽減対策イメージ図

※草刈①：水稻出穂期2～3週間前に実施、草刈②：水稻出穂期直前に実施